

骨髄再現培養法を用いた、新規抗癌剤開発研究

生化学

講師

岡本 秀一郎 Okamoto Shuichiro

キーワード

抗癌剤・白血病・細胞培養

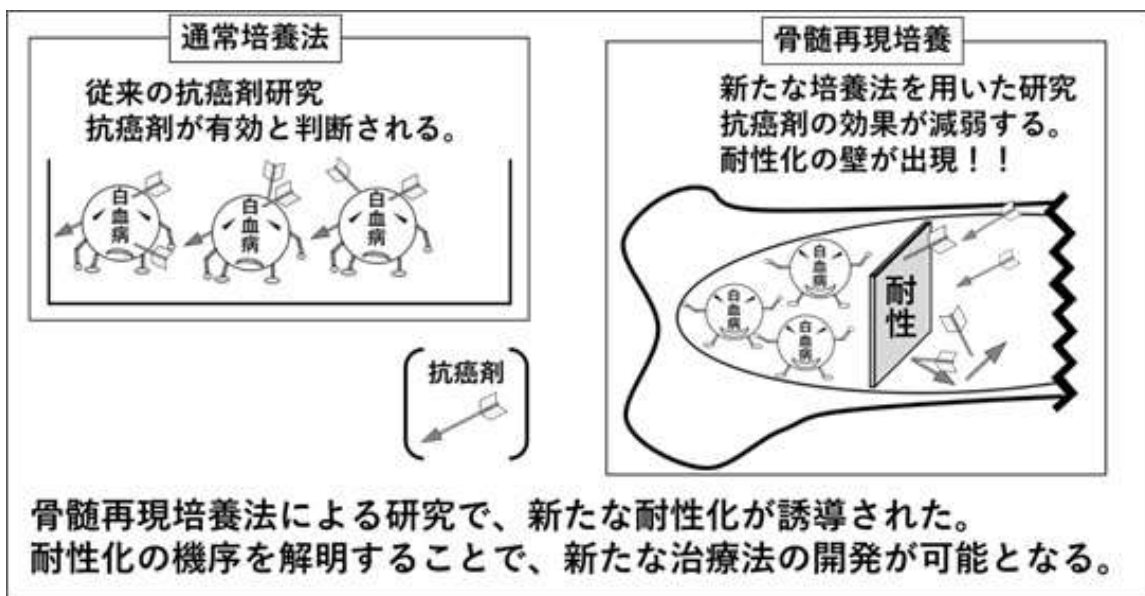


シーズ内容

白血病治療に用いる抗癌剤の開発は困難を極めている。in vitroで得られた結果が臨床へ応用できない最大の原因には、in vitro研究に用いられる培養環境が患者骨髄内とかけ離れていることが挙げられる。そこで、臨床応用可能な治療法開発には、新たな培養システムの開発が必要と考え、患者骨髄内を再現したin vitro骨髄再現培養法を開発するに至った。

この培養システムを用いることで、通常の培養条件では見出すことの出来なかった、抗癌剤耐性化を確認した。これは、骨髄内の環境因子により抗癌剤が無効になる現象をin vitroで再現している可能性があり、この耐性化を解除する方法を開発すれば新たな治療法につながると考えられる。

現在、耐性化が誘導されるメカニズムの解明研究を進めており、耐性化を誘導する因子が培養液中に分泌されることを確認している。今後、質量分析により耐性化誘導因子を同定する方針である。



想定される産業への応用

耐性化因子が同定されれば、耐性化を阻害する物質の探索が可能になり、阻害剤の開発が可能になる。

特許出願状況：未出願

【お問い合わせ】

川崎医科大学 産学連携知的財産管理室

Tel:086-462-1111 (内線:26030・26049)

mail: s-renkei@med.kawasaki-m.ac.jp